

6月・7月の予定

【事務所休日】

7月19日 海の日

【会議等】

6月17日(木)活動報告会(16時)

7月15日(木)活動報告会(16時)

【調査団】

6月18日～7月16日

「地方廃棄物処理機材整備計画事前調査団」

6月21日～6月27日

本部農村開発部村上真由美職員来シ

6月19日～7月23日

「ダマスカス導水トンネル改修計画(予備調査)」

【専門家・ボランティアの動き】

【帰国】お疲れ様でした。

佐野 清美 隊員(システムエンジニア)

新明 真紀 隊員(音楽)

岸 昭 専門家(水質管理)

伊藤 和久 専門家(水資源管理・チーフアドバイザー)

【着任】よろしくお願ひします。

森 範行 専門家(水資源管理・チーフアドバイザー)

『一時帰国』

阿野 貢 SV 4月18日～6月18日

大西 定行 SV 6月1日～7月22日

治武 春夫 SV 6月19日～8月19日

松永 秀夫 SV 6月21日～7月20日

長澤 一秀 所長 7月16日～8月16日

『健康管理旅行』

得津 隆一 SV 5月17日～6月17日

片山 克己 専門家 5月1日～6月14日

武市 直己 企画調査員 6月11日～7月12日

活動報告

シリアにきれいな水と空気を！

全国環境モニタリング能力強化計画事前評価調査団レポート

高島 千佳

調査団協力企画(JICA 地球環境部第二G(公害対策)第一T)

3月25日、地方自治・環境省での協議にて、全国環境モニタリング能力強化計画プロジェクトの枠組みに合意しました。内容は、2002年に成立した環境保護法を受けて、全国14県で環境モニタリングを開始するにあたって、必要となる地方自治・環境省スタッフの能力開発を日本との技術協力プロジェクトで行うものです。

前日にはオフィスアワーの後の20:00頃から地方自治・環境省副大臣 Imad Hassoun 氏と大臣 Hilal Atrash 氏と協議を続け、何杯もアラブコーヒーとシャイを飲み続けました。Imad 氏によると、オフィスアワーだと別の会議等も沢山入っているから夜のほうが落ち着いて話ができる、とのこと、協議の時間はたいてい夜遅い時間でした。大臣 Hilal 氏も連日26時(午前2時)頃まで仕事をしているそうです。この国の要人は随分と頑張っているんですね。(日本も同じかなあ。)

員がシリアでの環境モニタリングの現状を調査していました。



ホームでの分析の様子。分析ラボではケミストの Sanaa さん(写真)とアシスタント3名ががんばっています。

調査によると、シリア国内の深刻な環境汚染として、バラダ川、アワジ川、オロンテス川、バニアス周辺海域などの水質汚染、石油精製工場、亜鉛工場、肥料工場等による大気汚染がこれまでに他のドナーなどから指摘されています。一方、1991年に設立されたばかりの地方自治・環境省(設立当時は環境省)が現在までに行っている化学的モニタリングはホームス県における簡易水質分析(2002-2003年に活動していた牧野一郎専門家が供与した機材を使ったもの)のみで、他の県では化学的モニタリングが行える設備や技術者がなく、目測や「鼻測」(という言葉があるかわかりませんが、鼻でかいで判断する)といった方法で市民からのクレームに対応していました。今後は科学的なデータに基づくモニタリングが必要ということで、シリア政府から日本政府に協力要請が提出されました。

現在のモニタリングの状況や課題を確認するために調査団では関係者を招いて PCM ワークショップを行ったり、全国14県中の13県



PCM ワークショップ(2月11日)にてスピーチをする副大臣 Imad 氏。もともと農業分野出身で、花や自然が大好きな彼のオフィスにはヒヤシンスの鉢植えが置かれていてとてもいい香りです。蜂蜜やガルシニアティーなどの健康法には詳しいです。趣味は盆栽。

この合意のために、今年1月中旬から3か月近くにわたり調査団

を訪問し、視察や担当者からの聞き取りを行ったりしました。ホームで行われている簡易水質分析を視察に行ったときには、白衣を着たケミストが簡易試薬を使って分析をしてみせてくれました。分析の後に検体の入った液体を流しにそのまま流していたり、試薬に触って分析作業をした後に手を洗わずにコーヒーを淹れてくれたり（おいしかったけど）と不安の多い状態でした。ラボの安全管理を含めて基礎からの能力開発が必要と考えられます。

今回の合意内容は、全国 14 県が簡易水質分析、深刻な環境汚染が報告されているダマスカス、アレ



地方自治・環境省での協議の様子。左から、副大臣 Imad 氏、大臣 Hilal 氏、長澤所長、調査団長の田中 JICA 国際協力専門員。大臣のための会議室なのですが、部屋の内装が、伝統的なダマスカス様式で綺麗でした～。

ッポ、ホームスの 3 県が大気簡易分析、ダマスカスにおいて水質の一般理化学分析がそれぞれできるよ

うになるための 3 年間の技術協力を行うものです。分析技術と並んで、分析データの取りまとめなどのためのデータマネジメント、市民に伝えていくための環境教育もプロジェクトの内容に盛り込んでいます。環境教育については大臣 Hilal 氏がその重要性を強調していました。今後は両国間で、このプロジェクトの準備のために必要な人員の配置や予算の確保のための調整をしていきます。今年度中の開始を計画しています。皆さんの使う水や空気をきれいにするための第一歩です。:-)

活動報告

2004 年インドネシア総選挙支援を終えて

元ボランティア調整員 中原伸一郎

シリア在住の JICA 関係者の皆様ご無沙汰しております。私はシリアでの任期終了後、2004 年 3 月 5 日から 4 月 30 日の期間、JICA 短期専門家として 2004 年インドネシア総選挙支援に赴任いたしました。ご存知の方もおられると思いますが、私は元青年海外協力隊員として 2 年間インドネシアで活動した経験があり、1999 年のインドネシア総選挙時にも JICA 短期専門家・ロジスティックス・アドバイザーとして赴任していました。また、今次の総選挙においても、JICA として同国の選挙管理委員会を支援していくことになったという情報を聞き、これはまさしく私のための案件だと勝手に思い込み、迷わず手を上げました。



選挙キャンペーンの様子

我が国として、選挙支援がなぜ必要なのか？ こうした疑問に思われる方も多いのではないかと思います。このような民主化支援は世界的な流れとして「グッドガバナンス」支援がトレンドとなっています。特に米国を始めとした欧米諸国は、選挙の質を高めることで、該当国の国民のみならず、国際社会の信頼を高めることを打ち出しています。また、国民の中には「紛争もなく、自ら実施できる国になぜ国際支援が必要なのか」という問いもありますが、1999 年総選挙はスハルト体制、アジア経済危機の流れの最後の選挙だったといわれており、そういった意味でも今次の総選挙は旧体制以降初の民主化選挙という言い方もでき、国際社会としても「今回転んだら大変なことになる」という強い危機感がありました。

インドネシアを第 2 のバルカン半島にさせないためにも、「一国の将来を決めていくプロセスをその国民が満足する形で民主的に行なっていく」という意味はどういうことか」ということも国際社会がメッセージとして伝えていかなけれ



選挙キャンペーンの様子 2

ばなりません。だからこそ我が国をはじめ国際社会が税金を投入してインドネシアのより民主的な選挙プロセスを支援する意味があると思います。

このように、シリアのような権威主義体制を持つ国もまだ世界には数多く存在するものの、インドネシアはそこから一歩進んで、民主制への移行を進めています。

1999 年の総選挙と異なる点として、今次の総選挙は 政党数の減少 (48 政党 24 政党)、中央及び地方選挙管理委員会が常設機関となったこと、右選挙管理委員の責任の明確化、国民議会・地方代表議会・州議会議員・県/市議会議員の 4 選挙の同時実施、さらに有権者 (約 1 億 1 千万 約 1 億 3 千万人) 及び投票所数 (約 32 万箇所 約 56 万箇所) の増加が挙げられます。今回の課題としては、4 つの投票 (選挙) を同時に実施するため、そのプロセスはこれまでになく複雑なものとなる上、中

央及び地方選挙管理委員はその殆どが新たに任命された人材であり、選挙運営・実施の経験に乏しいことが指摘されていました。



投票所の様子

そこで、我が国は、総額 2200 万ドルの無償資金協力（ノンプロ無償）による投票箱（約 62 万個 全体数の 1/4）及び投票ブース（120 万個 全体数の 1/2）、草の根無償資金協力にいる現地 NGO を通じた有権者教育支援、JICA 専門家派遣（17 名）、国際選挙監視団の派遣（政府派遣 17 名、本邦 NGO15 名）による支援を実施しました。その内 JICA 専門家業務の柱としては、地方選挙管理委員の選挙運営・実施及び投票所係員に対する研修、選挙ロジスティクスに関する支援が策定され、ジャカルタ・メダン・ジョグジャカルタ・スラバヤ・デンパサール・パンジャルマシ・マカッサルの 7 都市を基点に（基本的に 1 チーム 2 名体制）活動を実施してきました。

17 名の専門家は、そのバックグ

ランドも国立大学助教授から、元協力隊員、民間会社員、大学院生まで様々ですが、地方選挙管理委員会とともに、それこそ土日の休みもなく精力的に活動を実施してきました。また、それぞれのチームでは支援アプローチの方法が異なったものの、各人の能力や専門性を踏まえつつ、最大限効果的に活動できたものと思われます。地方専門家が実施した活動の一つの成果として、JICA に対する感謝状が各地方選挙管理委員会から JICA 事務所へ送られてきましたが、このような感謝状は 1 枚、2 枚という数ではありませんでした。

ちなみに、私はジャカルタで中央選挙管理委員会と地方に派遣されている 14 名の JICA 専門家の窓口として、ロジスティクス部門総括、中央選挙管理委員会からの情報収集、各地方専門家から中央選挙管理委員会に対する依頼や問い合わせ事項の取りまとめと情報収集、JICA ロジスティクス業務支援（現地業務費管理、治安対策等）という大役を任せられ、業務としてはややきついものがありました。地方に派遣された専門家と違い、マクロ的に総選挙を見ることができ、かつ尊敬する黒田一敬専門家に最も近いポジションで仕事ができただけでもあり、いろんな意味で勉強になりました。さて、投票日は、これまでの活動の集大成として専門家は各地の

投票所を地方選挙管理委員とともに巡回し、活動評価を実施しまし



投票の様子

た。この結果、地方専門家が活動した地域に関しては、大きな混乱もなく公明正大な自由投票が行なわれ、その運営もある程度スムーズに実施できたようです。このことから、相互扶助、共同体意識を持つ意義として、今後のインドネシアの民主化促進によいものが残せたと思います。

今次総選挙の総論として、確かに課題も散見されたものの、実務的観点から見れば、民主化の一步を確実に歩んできた結果が出た選挙であったといえるでしょう。個人的にも、一国の大きな社会的変革に多少なりにもかかわることができたことは光栄であり、インドネシアが広大な領土、民族の違いを超えて今次総選挙を成功させたことに達成感を持ち、その経験を世界に誇るべきだと思います。そして、そうした経験を持つインドネシア人たちが、今度は他国の民主化を支援する立場になってくれることを期待したいと思います。

地域は開放的な風土であるそう。

活動報告

シリアの大学にメカトロニクス学科を設立

都築 孝(メカトロニクス)

ティシュリーン大学メカトロニクス工学科

シリアに来てみて驚いた

派遣が決まってから、シリアの状況を調べてみると、「大学に派遣された専門家が女性スタッフ指導の延長でホテルの自室に入ったところ、警察が踏み込み、連行された、云々」とあるではないか、これは大変な所だ、同じイスラム圏でもインドネシアのように気楽に

冗談など言うてはおれないぞ！そういう覚悟で現地大学にはいったのであるが、どっこい、この大学内は女性優位で、男子学生 1.5 万人なのに女子学生は 2 万人もいる。朝のキャンパスは、爽やかな女学生が大勢闊歩していて、先進国と比べても全く遜色ない明るいムードであった。特にこの地中海

シリア初のメカトロニクス工学科がスタート

さて、我メカトロニクス工学科は 50 人の新入生を迎えて、5 年間のエンジニアリング・コースとして始まった。他の学科が座学主体の旧態然の教育なのに、メカトロニクス工学科では 1 年次生からプロジェクト作製を指導している。若者が、「もの造りの喜びを知ることが、のちの「仕事熱心な技術者」の源であることを実証できるはずである。

まずはメカトロ・スタッフの育成を優先する。このスタッフは電

気、電子、機械、コンピュータ技術を専門とする人たちの集まりで、彼ら自らが、「異分野がいかに協力し、成果を上げることができるか？」を示し始めている。また、これを見た電気、電子、機械、コンピュータなど他の学科の5年次生も集まってきて、共同作業による卒業プロジェクトを作製し始めている。日本では取り立てて述べるほどのことでもないが、ここシリアでは全く新しい現象なのだそうである。



新装なった我メカトロ・ラボの風景：左から、メカトロ1年生、展示プロジェクト調整中の電気工学4年生(将来のメカトロスタッフ)、電気工学4年生(女性)、JICAメカトロ・プロジェクト・コーディネーター(電気工学)、都築孝専門家、それに3名のメカトロ1年生で、ダマスカスのIT展示会に出品する準備中である。

メカトロニクスというと、先端

技術のように思われがちであるが、途上国のメカトロニクスはむしろ「実地的な基礎技術を統合して活用できる」ように学生を指導することが中心となる。例えば、学生のロボコンなどは電気、電子、機械、コンピュータの分野の壁を乗り越えて、作業する典型的な例である。それを良く見てみると決して技術的には高くないものである。メカトロニクスの学生が育つまでには、しばらくの期間が必要ではあるが、中近東でも、遅れている部類に数えられているシリアから、国際的レベルのメカトロ技術者が育つ可能性は充分にある。そして、これがトリガー役となり、学部全体が活性化することがねらいである。

今のところ小生が単身でJICA支援を始めているが、日本の高専や大学もウェブサイトから我々の活動を感知して、関心を示している。北九州高専の電子制御工学科からは技術的なアドバイスなど頂いている。今、スタッフレベルでの交流も始まろうとしている。シリアの高等教育省の期待が大きいため、個別専門家としては多すぎる支援要請をして、JICAシリア事務所を困らせ、ティシュリーン大学側に

も要求が多いのはいたしかたない。しかし、その内に中近東を代表して世界ロボコンにも出場できるであろう。その素地は充分にある。

シリアでの生活

今回は単身赴任となった。女房がマレーシアでシニア・ボランティアをしているからである。子供たち3人を無事に育てた上、研究を続けたスタミナはたいしたものだが、僕はおいてきぼりを食っている。最初に出会ったのは協力隊で、僕がすでに30歳、彼女は二十歳。

お互いにジェネレーション・ギャップを感じたものだが、今は僕が引退間際で、彼女が家計の主役となりそうな時代となった。今のところは、仕事もあり一人前に扱ってもらっているが、退職して、ただの老人になるとどうなるのだろうか？そう考える一方で、はやく仕事から解放されて、自由な身になりたいと、期待もしている。シリアでは快適な生活で、まわりの環境にも恵まれている。ただ、人徳のなさか、親しい友達がいないのが寂しい。

まず、シリアにはこれといって何もありませんが、子供たちの目に夢がありました。

いずれはまたそういう社会に戻って、何かお役に立つことがしたいというのが、私の今の夢です。

明日は東京に出張するので、時間があれば12-2で同期だった隊員に会ってこようと思います。

帰国してからも、なにかとつながりの深いシリア隊員たちです。

シリアはもう酷暑でしょうね。どうぞお体ご自愛ください。それではまたお便りさせていただきます。

近況報告

帰国隊員からのお便り

12年度2次隊 ホームス(食品衛生) 中園幸歌

お久しぶりです。

私が帰国する日、高橋克彰隊員宅で出発前の景気づけをしたのですが、あのときに所長も来て下さってとても嬉しかったことが昨日のことのように思い出されます。

イラクの情勢や米国の対シリア制裁のせいで、シリア人達を取り巻く状況がどのようになっていくのか心配です。現在は福岡に住んで、(株)東洋新薬という健康食品や化粧品のOEMメーカーで働いています。コスタリカのOBも研究部

門で働いています。

本当は試験管を振っている予定だったのですが、この春の異動で化粧品事業部にいます。日本人らしく、毎日めれなく残業付きですが、はりきってやっています。

今月は出張ばかりでゆっくり時間が持てないので、今すぐということではなければ、ぜひ投稿させていただきます。

こちらの生活も楽しいですが、ふと気がつくとシリアでの生活に戻りたがっている自分に気がつき

We are on the WEB. See us on www.jica.go.jp. www.jicasr.org

お知らせ

本ニュースレター配信ご希望の方は当事務所まで氏名、メールアドレス、JICAとの関係(所属)を連絡願います。

編集後記

シリア赴任から早くも半年が経ってしまいました。周りから聞いてきた話と違わず、あっという間に6ヶ月が過ぎていった気がします。早くもダマスの暑さを辛く感じ始めていますがまだまだ序の口とのこと。皆さんも食事、水分補給を十分すぎるほど行って、体調管理に気をつけましょう。(R.F.)